

函館市内近郊のインフルエンザは3学期が始まってから、徐々に増えてきています。正月前のA香港型の流行から、新型と言われていたH1N1型の流行にこれからはシフトしていくものと思われます。休養をとったり、手洗いをしたりなどの予防対策は気を緩めないでしてください。

今年は雪が多く、寒い日が続いています。クリニックの行き帰りには時々スリップして前部が大破した自動車に遭遇します。子どもが乗っていたら大変だよねと思うのですが、みなさんの子供はしっかりチャイルドシートに座らせていますか？座らせると泣くからという理由をつけて抱っこしているということはありませんよね。今月届いた小児科の専門書に、後部座席のシートベルトが子どもの首に巻きついて窒息状態に陥ったという報告が乗っていました。概略は次の通りです。

走行中の後部座席で5歳の兄とシートベルトで遊んでいた2歳の女兒。遊んでいる途中で、シートベルトが首に巻きつき兄が運転した母親に伝えました。後部座席のシートベルトはチャイルドシートを固定するために一度全部引き出すと緩めることができない構造になっています。そのため母は、近くの店でハサミを借りてシートベルトを切って子供を助けだしたそうです。子供は低酸素脳症とのことで、今後の発達が心配です。

また、消費者庁によれば、ペットボトルに入った入浴剤を子どもが飲んで一時期意識不明になった事例も報告されています。

日本では、感染症で命を落とす子供の数はこの20年ですいぶんと減りました。しかし、残念ながら事故や誤飲で命を落とす子供の数はあまり変わっていませんし、1歳から5歳までの死因の一番は事故死という状態が相変わらず続いています。子供の成長のためには外で遊ぶなどの経験を積むことはとても重要なことですが、あいも変わらず、大人の方は危険なものがあっても、近くだからとか、この辺はあまり車が通らない、そんなものは食べたり飲んだりしないだろうなどと大人の勝手な理由をつけて、子供の周りの危険性に無頓着です。どうかもっと関心をもって接してもらいたいものです。